

研究成果展開事業
大学発新産業創出プログラム(START)
大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援

中間評価結果

令和6年5月31日
国立研究開発法人科学技術振興機構

<目次>

1. 制度概要	2
2. 中間評価の目的	2
3. 中間評価の概要	2
4. 総合評価結果のランクと基準	3
5. 中間評価結果	3

<対象プラットフォーム名>

- ・ Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)
- ・ Tokai Network for Global Leading Innovation (Tongali)
- ・ 京阪神スタートアップ アカデミア・コアリション(KSAC)

1. 制度概要

大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援では、令和2年7月に内閣府が選定した「スタートアップ・エコシステム拠点都市」において中核となる大学・機関から構成されるプラットフォームに対し、アントレプレナーシップを有する人材の育成とスタートアップ創出へ一体的に取り組むための活動に必要な支援を行う。

大学から生まれる優れた技術シーズの実用化やアントレプレナーシップを有する人材の育成を強かに支援し、コロナ後の社会変革や社会課題解決に繋がる社会的インパクトの大きいスタートアップが持続的に創出される体制を構築することを目指す。

2. 中間評価の目的

本評価では活動の実施状況や成果・課題を明らかにし、支援期間終了までの取組の改善に寄与することを目的とする。

3. 中間評価の概要

(1) 評価者

大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援委員会

(2) 評価方法

報告書の査読及び面接(プレゼンテーションによるヒアリング・質疑応答)

(3) 評価の観点

プログラム実施項目である以下①～⑤について、それぞれ「ビジョン・目標への進捗」「取組内容」「課題分析と今後の対応方針」の観点で評価した。

- ① 全体(総合)
- ② 起業活動支援プログラムの運営
- ③ アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営等
- ④ 起業環境の整備
- ⑤ 拠点都市のエコシステムの形成・発展

4. 総合評価のランクと基準

総合評価のランクと基準は、以下の通り。

総合評価 ランク	基準
S	特に優れた進捗があり、今後のスタートアップ・エコシステムの形成・発展が特に期待できる。
A	十分な進捗があり、今後のスタートアップ・エコシステムの形成・発展が期待できる。
B	一部不足があるが、概ね一定の進捗があり、今後の改善努力によりスタートアップ・エコシステムの形成・発展が期待できる。
C	進捗が不十分であり、今後のスタートアップ・エコシステムの形成・発展には相当の改善努力が必要である。

5. 中間評価結果

5-1	Greater Tokyo Innovation Ecosystem(GTIE)4 頁
5-2	Tokai Network for Global Leading Innovation(Tongali)6 頁
5-3	京阪神スタートアップ アカデミア・コアリション(KSAC)7 頁

5-1 Greater Tokyo Innovation Ecosystem(GTIE)プラットフォーム

プラットフォーム名	Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)
主幹機関	東京大学 【総括責任者】染谷 隆夫 【プログラム代表者】各務 茂夫 早稲田大学 【総括責任者】若尾 真治 【プログラム代表者】柴山 知也 東京工業大学 【総括責任者】渡辺 治 【プログラム代表者】辻本 将晴
共同機関	筑波大学、千葉大学、東京農工大学、お茶の水女子大学、神奈川県立保健福祉大学、横浜国立大学、横浜市立大学、東京医科歯科大学、慶應義塾大学、東京都立大学、芝浦工業大学、ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン、CIC Toranomom 合同会社、渋谷スクランブルスクエア株式会社
評価対象の活動期間	2021年 11月 8日～2023年 10月31日

1. 活動概要 (GTIE 中間報告書より引用)

「世界を変える大学発スタートアップを育てる」という GTIE ビジョンの下、「スタートアップ・エコシステム 東京コンソーシアム」に参画する、大学と地方公共団体、イノベーションを様々な形で支援する民間機関とが連携して、「アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営(東京大学、早稲田大学による GTIE 関係者向けプログラムの提供や、共同機関を含めた先駆的な教育の取り組みと試行錯誤の共有、FD プログラムの実施など)」、「拠点都市のエコシステムの形成・発展(GTIE や東京コンソーシアムの参画機関のネットワークを相互接続し、海外ベンチャーキャピタルやアクセラレーターを含めた協業・イベントなどを積極的に進めた)」等に係るプログラムを実施した。

2. 評価結果

総合評価:B

3. 総合評価結果

参画大学ごとの得意分野を生かし、質の高い起業活動支援及びアントレプレナーシップ教育プログラムを実施しており、また都市部の利便性の良い場所に起業拠点を整備したことも特筆すべき点である。

アントレプレナーシップ教育については、プラットフォーム全体の学生が受講可能なプログラムを、オンライン版・オフライン版・海外派遣に分けて提供しており、大学関係者や学生の相互交流の強化を図っている取り組みであると評価できる。各機関で実施されている教育プログラムのプラットフォームにおける位置づけや関係性を分かりやすくするため、プラットフォームとして全体を体系化・整理することで、対象者が受講しやすい環境の醸成につながると考える。

全体的に、主幹3機関の活動の質が高いと評価できるものの、プラットフォームとしての視点が見えにくくなっている印象がある。各機関の強みを意識しつつ役割を再度検討し、東京を中心とした日本を代表するプラットフォームとして、知名度の向上や参画機関を増やす取り組みなどを推進して欲しい。

5-2 Tokai Network for Global Leading Innovation(Tongali)プラットフォーム

プラットフォーム名	Tokai Network for Global Leading Innovation(Tongali)
主幹機関	名古屋大学 【総括責任者】 東海国立大学機構名古屋大学 機構長 松尾 清一 【プログラム代表者】 副総長／学術研究・産学官連携推進本部長 佐宗 章弘
共同機関	豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、岐阜大学、三重大学、名城大学、中京大学、藤田医科大学、名古屋市立大学、岐阜薬科大学、愛知県立芸術大学、椋山女学園大学、光産業創成大学院大学、愛知県立大学、静岡大学、浜松医科大学、南山大学、豊田工業大学、金城学院大学、中部大学
評価対象の活動期間	2021年 11月 8日～2023年 10月31日

1. 活動概要 (Tongali 中間報告書より引用)

名古屋・浜松地域を中心としたスタートアップ・エコシステム拠点都市が掲げる「イノベーション創出を加速し、日本経済を牽引する成長と、スタートアップと新産業の創出が続く新しい社会「Next Society」を実現する」に貢献するべく、東海地区の大学コンソーシアムである本プラットフォーム(PF)「Tongali」は、アントレプレナーシップ教育と、研究成果を基にしたスタートアップの起業支援を推進している。本事業では、「起業活動支援」「アントレプレナーシップ人材の育成」「起業環境の整備」「エコシステムの形成」の拡充・基盤整備を図ることによって、地域のスタートアップ・エコシステムを発展させていくことを目的とした活動を行った。

2. 評価結果

総合評価：S

3. 総合評価結果

アントレプレナーシップ教育の開発・発展、エコシステムの環境整備を地域一体として実施しており、今後の拠点活動を継続するための基盤構築ができています。

積極的な広報活動、プログラムにおける様々な創意工夫等の結果、東海地区のアントレプレナー教育受講生が大幅に増加したことは大きな成果である。また各大学でそれぞれの特色を生かしたアントレプレナーシップ教育が実施されており、地域全体でのアントレプレナーシップ教育の高まりが感じられる点も高く評価できる。プラットフォームへ参画する大学も拡大しており、今後更なるエコシステムの形成・発展に期待できる。

5-3 京阪神スタートアップアカデミア・コアリションプラットフォーム

プラットフォーム名	京阪神スタートアップアカデミア・コアリション
主幹機関	京都大学 【総括責任者】 理事(産官学連携担当) 澤田 拓子 【プログラム代表者】 成長戦略本部 本部長 室田 浩司
共同機関	大阪大学、神戸大学、大阪公立大学、大阪工業大学、関西大学、近畿大学、京都工芸繊維大学、京都府立大学、立命館大学、同志社大学、龍谷大学、京都先端科学大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西学院大学、甲南大学、大阪産業局、京都知恵産業創造の森
評価対象の活動期間	2021年 11月 8日～2023年 10月31日

1. 活動概要 (KSAC 中間報告書より引用)

本プラットフォームは、「90社以上の大学発スタートアップ創出」をはじめとするKPIを掲げ、起業活動支援・アントレ教育・起業環境整備・エコシステム形成活動を統合的に進めることで、「大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム」が目指すビジョンの実現に貢献することを目的とし、プラットフォーム共通のエコシステム機能を開発し、普及させ、本拠点都市で実施されている他の事業などとの有機的な連携を図ることで、「連続的な大学発スタートアップの創出」と「アントレプレナーシップ人材の裾野の拡大」を目指し、大学をはじめとする各参画機関の特徴を生かしたシナジーが最大限発揮できる国際的なスタートアップ創業環境を構築すべく、各種施策を展開している。

2. 評価結果

総合評価:A

3. 総合評価結果

アントレプレナーシップ教育においては、目指すべき人物像が明確に示されており、それに沿った取り組みがなされていると言える。スタートアップ育成教育に加え、幅広く社会の価値創造にチャレンジする人材育成教育も含まれており、全体がバランス良く構成されている。また、Webサイトの「DOON!」を始め、複数の地域共通基盤を構築したことは、プラットフォーム内の全体レベルアップに資する成果であると言えるものの、登録プログラム・登録者数を増やすことが課題である。

起業支援活動プログラムの運営においては、論文データや特許データを活用した研究者探索ツールを開発し、参画機関の研究開発課題発掘を支援し、プラットフォーム全体として機能する体制整備を進めている。これは、参画機関全体の底上げとともに、将来へつながる持続可能な体制の整備と評価できる。

一方で、関西圏におけるプラットフォーム活動の周知強化は必要不可欠と考えており、今後、より多くの大学および学生や研究者に知ってもらえるような工夫を期待する。